

「夢は叶う」

“ Dreams Come True ”

ピリピ人への手紙 4章 4～13 節

聖学院大学 人文学部チャプレン エバート・D・オズバーン

今から48年前の1963年8月28日、20万人を超す人々がアメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.にあるワシントン記念塔と、リンカーン記念碑の間を埋め尽くしました。この人達はすべてのアメリカ人、特に黒人の完全な自由のため、平和的手段をもって抗議するべく集まって来たのです。その日のクライマックスは、マルチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の演説でした。このスピーチを“I have a dream.”(私には夢がある)と呼んでいます。

8月の暑いその日に、キング牧師は演説の後半にこう言っています。

「わが友よ、今日私は皆さんに言っておきたい。われわれは今日も明日も困難に直面しているが、それでもなお私には夢があると。それはアメリカン・ドリームに深く根ざした夢なのだ。

私には夢がある。いつの日か、この国が立ち上がり、『我々は全ての人間は平等につくられているという事実を、自明のことと考える。』というこの国の信条を真の意味で実現させるという夢が。

私には夢がある。いつの日か私の幼い4人の子どもたちが、彼らの肌の色ではなく、人格そのものによって評価される国に住めるようになるという夢が。

今日、私には夢がある！……これが我々の希望なのだ。」

勿論、これはキング牧師がその日に演説したほんの一部でしかありません。実にその演説の最後の数秒間に“I have a dream.”という表現を8回、また、“freedom”自由という語を16回使っています。その5年後に、マルチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師は、テネシー州のメンフィスで殺されました。しかし、彼の夢は決して死ぬことはありませんでした。勿論、不正や人種差別は、他のどの国にもあるのと同様に、アメリカ合衆国にもまだまだ存在しています。しかし、現在アメリカ合衆国における黒人は、アフリカの国々を含め、世界の他の国の黒人に比べ自由を持っています。少なくとも、キング牧師の夢の一部は実現しました。一人の人間に自分の命をも惜しまない夢があったからこそ、何百万人という人々が助けられて来たのです。

さて、私は聖書の中の預言者や使徒達も、同様に大きな夢を持った人達であったと思います。実際、世界歴史上全ての偉大な良き改革は、往々にして大きな夢を持った少数グループの人々によって始められました。これには数多くの例が上げられますが、私にとって大きな意義を持つものは、キリスト教の布教とアメリカの独立宣言とその自由のための戦い(挑戦)、そしてアブラハム・リンカーンの

奴隷解放宣言です。国、そして世界さえもが、人々の夢によって変えられてきたのです。世の中にとって真実であることは、それぞれ個人にとっても真実でしょう。私も、皆様方も、大きな夢を持って人生を変える経験や、その夢を実現することができるのです。

私はあなた方の具体的な夢がどのようなものかは知りません。その夢は何か、社会に対してか、教会に対してか、家族に対してか、或いは、自分自身に対するものなのかもしれません。それが何であれ、もし神様の御心であれば成し遂げられることができると私は信じています。もし皆様の内で、いつも夢や希望を持っておられない方がいらしたならば、どんな小さなことでも何か夢を持ち始められることをお勧めします。特に若い人々にとっては重要なことです。私は学校で生徒達に夢を持ち続けるように語っています。その夢が不可能に見えたとしても、イエス様は「人間にはできないことも、神にはできる」と言われました。(ルカによる福音書 18:27)使徒パウロはフィリピの信徒への手紙 4:13 にこう書いています。これは私の好きな聖句の一つでもあります。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」

さて、夢を持つことは良いことであるということは、皆知っていることですが、それでは何故、私達の多くはその夢を実現させる行動に失敗するのでしょうか。夢を持つことができない、或いは、実現することができない、その第一の理由は恐れにあると思います。失敗への恐れや自己の無力さに対する恐れです。

夢を行動に起こせないという理由を作ってはいないでしょうか。多分、何かしたいと思っても、能力が足りないからできないと思っているのではないのでしょうか。そうだとしたらそれは良い理由にはならないでしょう。コリントの信徒への手紙一 1:18-20、25-27に次のように書かれています。「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。『わたしは知恵のある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。』知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。……神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。」

もし、あなたの夢が神様の御心ならば、成就することができるのです。コヘレトの言葉 9:11 で、あの歴史上最も知恵ある者と言われたソロモン王が、こう語っていることを覚えていてください。「太陽の下、再びわたしは見た。足の速い者が競走に、強い者が戦いに、必ずしも勝つとは言えない。知恵があるといってパンにありつくのでも、聡明だからといって富を得るのでも、知識があるといって好意をもたれるのでもない。」

これらに付け加え知能、知恵には、種類の異なるものがあることを心に留めておいてください。日本やアメリカでは、I.Q.というものが知能や成功の計りと信じられがちです。しかしながらハーバード大学のダニエル・ゴールマン博士は、1995 年に出した彼の有名な著書『情緒的思考力』の中でこう述べています。「I.Q.は人生の成功を決定する要素の20%程の一因となり、残りの80%はその他の要因にかかれる。」この「その他の要因」というものが情緒的思考力 E.Q.と呼ばれるものです。この情緒的思考

力とは、自己原動力、忍耐力、自制心、情緒安定性、他人に対する配慮や理解力、他人とうまくや
って行く能力、そして望みを持つ能力というものが含まれます。E.Q.は、I.Q.より遥かに大切なものです。
そして神様は私達全ての人間に高い E.Q.を持つ可能性を与えておられます。

ですから、自分が十分に賢明でないというのは、落語者が夢を実現するにはよい口実ではないの
です。モーセもそう言ってこじつけようとしたが成功しませんでした。私達にもそのような口実は効
かないでしょう。私達もよく使うモーセの使った口実で、自分自身にこう言います。「私にはこれはでき
ない。私にはそれをする能力はない。」

ここで、28 才のニック・ブイチチという青年の話をしていしましょう。おそらく、我々は何かを彼の物語
から学ぶことができるでしょう。

ニック・ブイチチは、1982年12月4日オーストラリアのメルボルンでキリスト教の牧師夫妻のもとに
生まれました。しかし、手と足のない障害を持って生まれたのです。信仰深いニックの両親も、ある時
は、なぜ神様は、希望も将来もそして普通の有意義な生活が望めないこのような体をおつくりになっ
たのか悲しみの中を歩いたと、ニックは言っています。勿論、手足のないニックは、成長期に多くの困
難と戦いました。クラスメートの中には、奇人、あるいは宇宙人などと呼びニックをいじめていた子供た
ちもいました。彼がまだ8才の時、ニックは自殺をも考えました。ニックはこの時の自分を次のように要
約しています。「僕は、絶対に結婚しない。仕事も絶対持てない。目的のある人生なんか絶対もてな
い！自分の妻の手もつなげない夫なんて僕には考えられない！」

それにもかかわらず、家族の大きなサポートと彼自身の信仰を通して、ニックは前進してゆきました。
ディプレッション＝精神の落ち込みを克服し現在彼は、水泳も潜水もします。サッカーも釣りも楽しみ、
又、特製の車も運転しています。ニックは牧師となり、インスピレーションに満ちた伝道者として、希望
のメッセージを世界中に伝えています。彼の驚くべき半生を語る『限界なき人生』と題した本も最近出
版されました。又、同じ名前をもつ NPO(ノン・プロフィット・オーガニゼーション)を立ち上げました。今
日は、YouTube(<http://www.youtube.com/watch?v=oOHD80qBVYs>)でニック・ブイチチの二つの
サイトをインターネットで一緒に見てみたいと思います。いつかニックについてもっとお話できる機会が
あるかもしれませんが、今日は、彼のメッセージを要約して皆様にお伝えしたいと思います。ニック・ブ
イチチは、彼が学んできた人生の三つの道義・原則を分かち合いたいと言っています。

その人生の三つの道義・原則とは：

- (1)感謝すること。【 Be thankful! 】
- (2)大志をいやくこと。〈大きな夢をもつこと〉【 Dream big! 】
- (3)決してあきらめないこと。【 Never give up! 】

(人生の三つの道義・原則を復唱する)

彼は世界中の若者に、くり返し、くり返し言っています。

「自分が何の役にも立たないということは、偽りです。」

「私たちは皆、ありのままの存在で美しいものです。」

ニックは、自分は大きな祝福を受け、恵まれた者であり、信じられないほど幸福であると言っています。そして、私たち皆に向けてのメッセージはこれです。「もし、あなたに何か成し遂げたい望みと情熱があるならば、そしてそれが神様の御心であれば、それを成し遂げることができるでしょう。」

彼の本の中で、ニックはそれぞれ個人の可能性に生きる為には、誰でも次の事柄が必要だと指摘しています。

1. 目的への強く鋭い感性。
2. 決して消えることのない希望。
3. 神様と神様の無限の可能性への信仰。
4. 愛と事故容認。
5. 高き前向きな姿勢。
6. 勇敢な魂。
7. 必要に応じ、快く進んで改めることのできる心。
8. 信頼心。
9. 良き機会を待ちわびる心。
10. リスク(危険)の性質を見極める能力と人生に対して笑える能力。
11. まず、人に仕えようとする使命感。

ニック・ブイチチは、フィリピの信徒への手紙4:13の生きたお手本です。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」ニックには手足がありません。しかし、彼は深い信仰と不屈の精神をもって、夢を叶えるために、自分の障害を言い訳とはしていません。盲目であり聾啞者であったヘレン・ケラーも同様ですし、彼女は「私は、私の障害を神に感謝します。それはこの障害を通して私は私自身と、自分の仕事、そして神を見出したからです。」と言っています。8,000を超える讚美歌を書いた盲目の人、ファニー・クロスビーもそうです。

彼等にあって私達に欠けているものとは何でしょう。彼等は夢を持っていたのです。彼等もし神への信仰と同時に、希望と訓練と堅忍持久とがあれば、夢は実現されると知っていたのです。

夢を消さないでください。実現できなくなる口実を作らないでください。神様と自分自身を信じてください。そして夢は実現される「夢は叶う」"Dreams Come True"と信じてください。

2011年9月23日 聖学院大学 全学礼拝